

## ＜企業ICT＞サブスク型ビジネスを支える次世代ICTサービス基盤を構築——ネットワークの高速・安定化で顧客満足度と生産性を向上

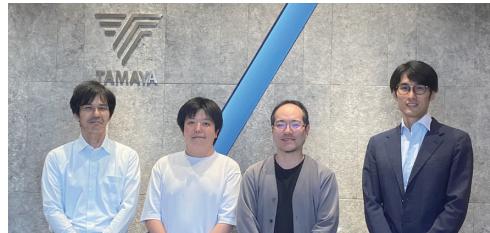
ICT機器の販売やレンタル、キッティングサービスなどを通じて企業や自治体の情報環境を支える株式会社タマヤ。同社は、業務拡大に伴う通信負荷の増加やネットワークの複雑化を背景に、社内インフラの再構築を決断。パートナーとして選ばれたのは、豊富な実績を持つアライドテレシスである。ネットワークの最適設計と一元管理を実現し、通信品質と業務効率を大幅に向上。安定した通信基盤を確立し、次世代の成長フェーズへと歩みを進めている。



(左から)  
株式会社タマヤ  
レンタル事業部  
部長 前田 隆章氏

ウェブマーケティング＆デザインチーム  
リーダー 小林 勝平氏

デジタルアーキテクチャチーム  
市川 裕基氏



(右)  
株式会社タマヤ  
取締役社長 玉村 文平氏

### 課題

- セットアップ業務の作業量増加により通信環境がひっ迫
- 拡張を重ねたネットワークの複雑化で全体把握が困難
- 従来の契約回線の影響で通信が不安定となり業務効率が低下

### 採用ポイント

- 専門家による最適設計と機器管理の一元化
- 長期運用とコスト最適化を両立する導入プラン
- 全国対応のサポート体制と将来の拡張を見据えた10G設計

### 効果

- タブレットの同時接続数や速度向上で作業効率が大幅改善
- ネットワーク構成の整理・可視化でトラブル対応が迅速化
- 安定した通信基盤により業務品質と顧客満足度が向上

### ICTを軸に地域と企業の課題を支えるタマヤの歩み

株式会社タマヤ（以下、タマヤ）は、ICT機器とオフィス機器の販売を中心に、企業や自治体の情報環境構築を支える企業である。導入からサポートまでを一貫して担い、顧客の業務効率化と安定した運用を支援している。パソコンやタブレットのセットアップ・キッティングなど、現場に密着したサービスを強みとし、ICT機器のレンタル・販売、キッティング、保守サポートを主要事業として展開。基幹システム運用にも対応し、オンラインレンタル事業の拡充により、短期導入や一時利用といった柔軟なニーズにも応えている。

取締役社長の玉村 文平氏は語る。「タマヤは、単に“モノを売る会社”ではなく、お客様の業務環境を支える“仕組みを提供する会社”へ進化していくたいと考えています。お客様の課題に寄り添い、長く伴走できる存在でありたいと思っています」。

この方針のもと、2024年7月に新体制が発足。10月にはICT機器のレンタルやキッティングを担う新社屋「Factory棟」が竣工し、2025年6月には東京オフィスを開設。全国展開を視野に事業を拡大している。

タマヤはまた、サステナビリティとサーキュラーエコノミーの推進にも積極的に取り組んでいる。PCの再利用を促進する「PCリユースプログラム」を導入するとともに、強化ダンボールの再利用による梱包廃棄物の削減や、地元中学校での出張授業といった地域貢献活動にも力を入れている。

### 業務拡大にともない高まったネットワーク基盤の再構築ニーズ

タマヤは顧客数の増加に伴い、パソコンやタブレットのセットアップ業務が急速に拡大していた。とくにWi-Fiを利用するタブレットでは、接続台数や通信速度に制約があり、作業効率を十分に発揮できない状況

が続いていた。

「作業量が増えるほど、ネットワークの遅延や接続制限がボトルネックになっていました。こうした状況は、業務効率や生産性向上において大きな課題でした」と玉村氏は当時を振り返る。

さらに、配線ルールや機器構成の統一が取れておらず、ネットワーク全体の把握が困難だった。障害箇所の特定にも時間を要し、インフラ担当者の負担は限界に近づいていた。

こうした課題が顕在化するなか、業務拡大とともに新社屋建設の計画が立ち上がり、それを機にネットワークを外部の専門企業へ委託する決断が下された。複数の社屋を横断するネットワーク構築は、自社対応ではリスクが高いと判断したためである。

加えて、当時の回線ではデータ通信容量が不足し、時間帯によって通信速度が不安定になることもあった。業務に支障をきたす場面も多く、安定した通信基盤の整備は急務であった。

### 信頼できる技術力による通信基盤の再構築と成果

パートナーにアライドテレシスを選んだ理由は、すでに別案件でその技術力と対応品質を高く評価していたためである。「以前、お客様のネットワーク構築を依頼した際、フォロー体制やトラブル対応の迅速さを目にし、自社の強化もお願いしたいと感じました」と玉村氏は語る。

タマヤが求めていたのは、専門家による最適なネットワーク設計と、一元管理による運用負荷の軽減であった。どこからでも快適に社内リソースへアクセスできる環境の構築を目指していたのである。

アライドテレシスは「運用管理の効率化」「Wi-Fiの安定化」「高速通信の実現」を軸に設計。AMF PLUSとVista Managerシリーズによる一元管理で機器の状態を見える化し、自動復旧にも対応。限られた人員でも安定した運用を可能にした。また、AWC（無線電波の自動調整）の導入により、タブレットの同時接続数や通信速度が向上し、Factory棟の



▲ ルーム OCEAN



▲ ルーム OASIS



▲ FACTORY棟\_出荷箱



▲ FACTORY棟\_パソコン棚

